

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690101306
法人名	株式会社 ウェルサポート
事業所名	ぐるーぷほーむ楽笑
所在地	富山市千原崎二丁目4番30号
自己評価作成日	令和4年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今までの生活を大切にしながら生活環境のもと、低下した認知機能をサポートしながら、できることに着目しながら生活を支えます。スタッフは個人で100点満点を取るのではなく、一人ひとりの良い所を出し合いながらチームで100点満点を目指します。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和4年7月25日	評価結果市町村受理日	令和4年8月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は新しくモダンな造りになっており、廊下にある芸術作品のような理念の額が来訪者を迎えてくれる。ホームの隣は、さみどり認定こども園があり、園児たちの作品やメッセージが事業所の玄関に飾られている。管理者には「固定観念無く利用者や家族と話し合いながら居心地のよいホーム作りができれば」との思いがある。職員からは「人間関係が良く休みも取りやすい」「資格取得の支援がある」などの声が聞かれ、チームワークの良さや働きやすい環境が伝わる。医療面では往診の他、医師や看護師と24時間連絡が取れ、緊急時の迅速な対応ができる体制が整っている。また、2階の交流スペースで、地域包括支援センター主催の「認知症家族介護教室」が開催されるなど、認知症の人にやさしい地域づくりにも貢献している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、玄関に掲示している。職員は毎月のミーティングで理念の復唱を行い確認しあい共有を図っている。	玄関と廊下には筆で描かれた理念の額が飾られており、自然と目が行く環境になっている。理念は法人内のデイサービス開所時に作られたものだが、わかりやすく実践しやすいことから、職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて情報の共有や意見交換をしている。幼稚園、小学校の交流を視野に入れているが、コロナウイルス感染予防のため数少ない交流となっている。	コロナが落ち着いているときは幼稚園児が玄関先で歌を歌ってくれた。また、幼稚園児からプレゼントされた作品やメッセージが玄関に飾ってある。近隣住民とは近くの花壇までの散歩や日向ぼっこをしているときに挨拶をかわしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議をおこない地域の方への理解を得られるよう取り組んでいる。地域行事の参加も視野に入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や町内会長、民生委員、自治振興会会長、地域包括支援センターの方に参加して頂き、利用者様の状況や今後の活動、活動報告、事故報告など意見交換を行いサービスの向上に努めている。	2名の家族代表と岩瀬・萩浦地域包括支援センターの職員が参加している。コロナ禍のため、感染が落ち着いていた12月に開催し、中止になった月の分も報告した。中止になった場合は事業所で開催予定であった日時と参加予定者を記載し、中止に至った記録を残している。	現状では、中止により報告できなかった情報を、開催できたときにまとめて報告しているが、早めに新しい情報が届くように書面開催による現況報告や課題提供を行い、意見の集約につながる工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設内で起きた事故報告を行っている。地域包括支援センターとは運営推進会議などで連携を図っている。	運営上の疑問などは、その都度電話で相談している。県や市主催の研修などにも参加している。春に地域包括支援センターの「認知症家族介護教室」が事業所の2階で開催され、会場提供などに協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族承認のもと 防犯、事故防止の為、玄関は施錠管理をしている。また、職員の見守りと居室空間には必要に応じてセンサーを使用している。身体拘束の研修を予定している。	身体拘束廃止に関する指針を整備し、検討委員会を設置した。身体拘束の研修は年2回の開催を予定している。今年度は7月に開催する予定だったが、コロナの影響で8月に延期している。センサーは行動制限ではなく、見守りを迅速にするために必要に応じて設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や更衣時にアザや内出血などの身体観察を行い、発見時に記録に残し申し送りなど職員で共有するよう取り組んでいる。何かあればミーティング等で話し合い、対策をたてている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、成年後見制度を利用している方はおられないが、今後 権利擁護に関する制度を理解できるように研修を予定していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に契約書、重要事項の説明を行い疑問や不安な点など尋ねわかりやすい説明を心がけている。理解、納得をいただいたうえでご家族様の同意のもと署名、印を頂いている。料金改定については随時文書で報告している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や普段の面会時、ケアプランの見直しの際に直接相談を受けている。提案された意見はミーティングなどで協議しサービスに反映させている。	家族来所時や電話を通じて伺った要望を日誌に記録し、パソコンの支援経過で全員が確認できるようになっている。ミーティングやリーダーミーティングで話し合い対応している。コロナ禍ではあるが親族の葬儀への出席や面会方法など要望に応え、その都度柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的なコミュニケーションを大切にし、ミーティング・面談・日頃の業務の中でも意見や提案、要望をもらうようにし業務や運営改善などに心がけるよう努めている。	職員と管理者・ユニットリーダーとは何でも直ぐに話せる関係性である。職員の要望から、状態が重度化し入浴がままならない利用者用にストレッチャータイプの浴槽椅子を購入した事例がある。年2回の面談で聞き取った要望は、管理者から事務長や社長に伝えて改善に向けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の面談を行うことで職員の意見・要望を聞く機会を作り、職員の環境整備に努めている。また必要に応じて面談などを取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の職場研修予定を組み実施している。職員には県や市の研修などに参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、外部研修などで交流の機会を通じて意見交換をおこないサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に利用者本人の過去の経歴や生活習慣を記入していただき、事前に性格や特徴、習慣などヒヤリングすることになっている。 入居後は情報、本人の訴え、観察を通してどのように関わっていくかを話し合い、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を希望される段階から、利用者を支える家族の方に対しても十分に話を傾聴するように心がけている。 入居後も利用者の様子を伝えたり課題があれば家族と話をしたりして解決策を見つけるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは要望を聞き、話し合いをすることができること、できないことを伝え、その中で必要な支援を行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴を踏まえて、調理、掃除、洗濯などできる範囲でのお手伝いをお願いし、お互いに支えあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時や電話連絡の際には近況報告や情報交換を密にして一緒に支えていけるよう配慮している。 ご家族には本人との絆を大切にしながら共に支えていく関係が築けるよう声掛けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊等の希望を可能な限り支援し、家族と一緒に馴染みの場所へ出かけるなどこれまで大切にしてきた場所との関係が途切れないように支援している。	車中からの花見や、地元の岩瀬方面を車でドライブしたりしている。感染対策をしたうえで、家族と通院した帰りに外食や美容院への寄り道や、離れた家族との電話、近所の方との手紙のやり取り、夫の葬儀への出席など個々の思いに寄り添いながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を築けるように座席を配慮したり必要に応じて職員が間に入ったりすることで孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要があれば相談や支援に努めている。利用者家族に思い出の作品や写真を渡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通じてその方の思いを把握するように努めている。理解が困難な時は本人の行動、表情、仕草からくみ取るように努め職員間で情報交換をしている。	個別の業務日誌に項目欄を設け、情報を拾いやすいように改善されている。申し送りノートは全職員が業務に入る前に必ず確認することになっている。また、月1回のミーティングで職員間で情報交換している。	項目欄を設け情報が拾いやすくなっているが、本人が発した言葉や思いについての項目が無いため全項目からその内容を拾い出す手間があり、直ぐにわかるような更なる工夫に期待したい。また、職員全員が記録内容を確認したことが分かるチェック欄を設けるなどの改善にも期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に本人、ご家族の話を聞き生活歴や習慣など把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握できるように努めている。日々の様子を個人日誌に記録し、ミーティングや申し送りノートを使いながら情報を共有し変化などに対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者ごとに担当者を決めている。情報収集をしてモニタリングを行ったり、ミーティングで検討したりしながら反映している。本人や家族の意向を取り入れ介護計画を作成している。	職員が2~3名の利用者を担当して情報把握をする体制が取られている。ケアプランは3か月毎に更新し、モニタリングは毎月行っている。アセスメントは課題整理総括表を加工した事業所独自の様式を使用し、状況の変化や更新時に課題や支援内容が変更されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施について個人記録に記入し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態の変化や家族のニーズに合わせ柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで意見交換をし、資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿った医療機関に受診、またはかかりつけ医の往診をしていただいている。 症状を観察しながら医療機関との連携をとり、情報の交換、相談に努めている。	主治医は入所時に自由に決めることができる。現在1名が通院で、その他の利用者は協力医(内科)の月2回の往診を受けている。夜間でも24時間、看護師や主治医に連絡することができる。受診時は書面で情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や医療支援について介護記録などの情報を共有し、介護職と看護職との連携に努めている。必要に応じて医療機関との情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の情報を必要な限り提供し、安心して入院、治療できるよう医療機関と連携をとっている。必要に応じて医療機関と情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化や終末期のあり方について事業所ですることができる事、できない事を説明し理解を得ている。重度化した場合はご本人、ご家族、主治医と相談しながら対応することになっている。	看取り指針を作成し、入居時に説明している。看取り加算の体制は整っていないが、24時間、主治医や看護師の支援体制があり、ケースごとにその時々で本人、家族、主治医と協議の上決めていくことにしている。今後も支援体制の整備を進めていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時対応マニュアル」を作成し、緊急対応についての研修を計画、実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、年に2回 日中・夜間帯の想定で避難訓練を職員・利用者として行っている。前回には地域の方に協力をお願いしていたが、感染症予防のため実施できていない。	ハザードマップ上は水害の非該当地区であり、事業所は耐震構造になっている。地域住民である経営者は地域の防災訓練に参加している。現在備蓄マニュアルは作成中である。また、コロナ禍で前回は避難訓練に地域の方の参加を見送ったが、次回は予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの立場に立ち、言葉遣いに気を付けて声掛けし、落ち着いた対応を心がけている。プライバシーや羞恥心に配慮しながらの支援に努めている。	排泄や入浴など肌を見せる際には特に気を付けている。他者から見えないように、本人が嫌な気持ちにならないように話しかけるようにしている。本人希望で下の名前で呼んで欲しいと言う方には、家族の了解を得たうえで、下の名前に「さん」を付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が可能な利用者の方にはご自身の思いや要望を傾聴し尊重している。意思表示の困難な方には表情や仕草から読み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間など職員側の決められた部分もあるがそれ以外の時間については可能な限りご自身のペースで過ごしていただけるような支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服をできるだけご自分で選んでいただくようにしている。定期的に理美容を利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事の際におやつを職員と一緒に作っていただくこともある。テーブル拭きや野菜の皮むきなど個別の能力を見極めながら手伝っていただいている。利用者の方に合わせ刻みやトロミをつけるなど対応している。	献立や材料は業者委託だが、希望に応じて行事食に変更可能であり、土用の丑の日には鰻に変更した。また、刺身や弁当をテイクアウトするなど食べたいものを選択する機会がある。生クリームをのせたカステラにトッピングしたり、どら焼きを作ったりと手作りおやつも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は外部の業者より調達している。カロリーや栄養バランスに配慮された献立になっている。食事、水分量をチェックし健康状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。介助が必要な方にはスタッフが介助している。義歯の場合は本人やご家族の希望により消毒をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。尿意・便意があいまいな利用者の方がトイレでの排泄ができるよう行動や様子からくみ取れるよう声掛け誘導を行っている。	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを見てトイレに誘導している。失禁が減少した利用者もいる。排便に関しては、毎日おやつにヨーグルトを提供したり、水分摂取の声掛けと水分量のチェックをしたりして気持ち良く排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬での調整、おやつにヨーグルトを取り入れている。 体操や散歩など適度な運動で自然排便に働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯を決めているが、その日の体調不良や拒否などの際に無理強いせず翌日にするなど柔軟に対応している。入浴時には1対1で職員との会話を楽しんでもらいながら安心して入浴していただいている。	入浴は、月曜から金曜までで、一人週2回その他、発汗や排泄で汚れた時など適宜対応している。入浴の準備では、利用者自ら衣類を選んでいる。状態に応じて機械浴にも対応し、希望があれば入浴剤を入れている。頂き物のゆずを入れ、季節感や香りを楽しむ支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠を妨げないように巡視や必要に応じてトイレへの誘導など対応している。 日中は休息の時間を確保し、ご本人の希望を優先して休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は常に薬棚に置いてあり、確認できるようになっている。 飲み忘れがないよう服薬確認を行っている。体調の変化などを把握し、往診時、医師に相談し服薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならない程度に洗濯物たたみ、掃除、調理などのお手伝いを一緒に行っている。 お好みの嗜好品、コーヒーなどを選んでいただきおやつの際に提供している。 折り紙や塗り絵、歌や散歩などの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに年に数回外出行事を計画し、季節を感じていただけるようにしている。天候によってはドライブや散歩など出かけている。移動販売車での買い物も月2回行っている。	年間の行事計画を立てているが、ドライブ以外はコロナ禍で中止になることも多かった。移動販売のどくし丸を月2回利用し、利用者同士が何が食べたいか話し合い、利用者の代表が皆で食べるおやつや果物を選び購入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金の預かりは行っていない。ご家族には外出時にかかる実費分は請求書に記載することの了承を得ている。出かけた際には本人に会計の支払いをしていただくことができるよう予定している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する場合、ご家族に確認しながら必要時電話を利用できるよう対応している。遠方のご家族からの電話が入った時には利用者の方の近況をお伝えしながら電話の取次ぎを行っている。手紙などの交流も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床、扉、テーブル等落ち着いた色合いの物を配置している。毎日の施設内の掃除の実施、空調管理、照明の調節は職員が行い快適に過ごしていただけるよう心がけています。折り紙やちぎり絵など季節の作品を飾り四季を感じることができるよう努めています。	事業所全体がゆったりしたモダンな造りになっており、シックな色合いで天井も高い。布を使用し、エアコンの風が直接利用者に当たらないように工夫されている。また、利用者の作品の飾り方にも工夫があり、整然と飾られ全体的に落ち着いて過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者ごとの個性、性格を把握したうえで座席等の配置をしている。テレビ周辺にソファを配置して気の合う方同士がテレビを見たり談笑されたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物をご家族に持参して頂き居心地良く過ごすことができるよう配慮している。	居室の壁の色は3色あり、どの部屋も明るく落ち着いた色合いになっている。各自、自分の作品を飾ったり、小物を飾ったりしている。コロナ禍であり、タンスの中は職員と一緒に整理整頓しているが、以前は来所した家族と一緒に衣替えなどをしてきた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーになっている。廊下やトイレ、浴室には手すりを設置しADL(日常生活動作)に合わせて自立の支援を心がけている。また場所の表記を行うなど工夫している。		

2 目標達成計画

事業所名 ぐるーぷほーむ楽笑

作成日: 令和 4年 8 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を現在は新型コロナウイルス感染予防のため中止している。中止のお知らせは郵送しているが書面での活動等の報告はしておらず次回開催時にまとめた報告をしていた。	中止の場合は活動報告や事故報告などの情報を書面におこし書面開催にて現在の状況報告をおこなっていききたい。	開催時にお伝えしている活動報告や事故報告を書面にし新しい情報を届けていきたい。報告や課題などの提供をおこない皆さんの意見をいただき意見交換ができるようサービスの向上に反映させていく。	2ヶ月
2	23	個別の業務日誌から情報を拾いやすいよう項目欄を設けているが項目が不十分であった。業務に入る前に申し送りノートを確認することになっているが確認のチェック欄がない。	項目欄を追加し本人の思いを記入しやすくしたい。申し送りノートを活用し全職員と情報を交換したい。	本人が発した言葉や思い、様子の項目を新しく追加し情報を拾いやすくしていく。 申し送りノート: 全職員が記録内容を確認しやすい様式への変更、確認サイン欄を設け全職員確認したかが分かるようにチェック欄を設ける。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。